

- 問1 弥生時代には大陸から青銅器と鉄器の技術が伝わりました。鉄が主に武器や工具として利用されたのに対し、青銅器である銅鐸は、時代が進むにつれて大型化していきました。このような変化を遂げた銅鐸は、当時どのような目的で使われていたと考えられていますか。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
1. 稲を効率よく刈り取るための実用的な工具 2. 集落を外敵から守るための鋭利な武器 3. 豊作などを願うための祭祀の道具 4. 大陸との交易において価値の基準となる貨幣
- 問2 中国の歴史書には、紀元前1世紀頃から1世紀頃にかけての倭（日本）の様子が記されています。これらの記述についてまとめた次の説明のうち、最も適切なものはどれですか。 (2023年 大分県公立入試 類似)
1. 『魏志』倭人伝には、倭の王が初めて中国の皇帝に朝貢し、大陸の進んだ青銅器文化を日本へ持ち帰ったことが記されている。 2. 『漢書』地理志には、倭人が100余りの国に分かれて生活し、定期的に朝鮮半島の楽浪郡へ使節を送っていたことが記されている。 3. 『後漢書』東夷伝には、卑弥呼が30余りの国を従え、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号を授かったことが記されている。 4. 『漢書』地理志には、奴国の王が後漢の光武帝から金印を授かり、中国との交流を深めたことが記されている。
- 問3 弥生時代に大陸から稲作が伝わり、食料を蓄えることが可能になったことで生じた社会の変化について、最も適切な説明を選んでください。 (2021年 神奈川県公立入試 類似)
1. 表面に縄目の文様がある、厚手で黒褐色の土器が全国的に作られるようになった。 2. ナウマン象などの大型動物を狩猟するために、人々は移動を繰り返しながら生活するようになった。 3. 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。 4. 政府から農民へ平等に土地が割り当てられ、収穫した稲を税として納める制度が整った。
- 問4 「魏志倭人伝」に記されている、3世紀頃の日本（倭）の社会や政治の様子に関する説明として、当時の状況を正しく述べているものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった 2. 仏教が伝来した直後であり、各地で巨大な寺院の建設が始まっていた 3. 律令制度が導入され、戸籍に基づいて全ての人々に口分田が割り当てられていた 4. 武士団が結成され、各地の荘園を管理するために地頭が派遣されていた
- 問5 縄文時代末期に大陸から北九州地方へ稲作が伝来したことにより、その後の社会の仕組みはどのように変化しましたか。最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 奈良県公立入試 類似)
1. 全国で狩猟や採集が完全に行われなくなり、全ての集落が移動をしない定住生活を同時に開始した。 2. 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。 3. 大陸との交易が独占されたため、各地の集落が独立したまま争いのない平和な時代が続いた。 4. 米を貨幣として使用する制度がすぐに確立し、中央集権的な国家が全国に一斉に誕生した。
- 問6 中国の歴史書「魏志倭人伝」に記録されている邪馬台国の女王卑弥呼は、当時の中国の王朝である魏に使いを送りました。卑弥呼がこのような外交を行った背景や、その結果として得た称号について述べた文として正しいものはどれですか。 (2026年 大阪府公立入試 類似)
1. 白村江の戦いで協力を依頼するため、皇帝から「日本国王」の称号を授かった。 2. 仏教を日本に広めるための援助を求め、皇帝から「倭王武」の称号を授かった。 3. 大陸の優れた青銅器技術を独占するため、皇帝から「遣隋使」として認められた。 4. 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。
- 問7 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。 (2020年 徳島県公立入試 類似)
1. 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた 2. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた 3. 狗奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した 4. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った
- 問8 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使者を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとしていました。 (2024年 宮崎県公立入試 類似)
1. 通商 2. 冊封 3. 朝貢 4. 民間貿易
- 問9 邪馬台国の女王である卑弥呼が、中国の魏（ぎ）へ使いを送り、皇帝から「親魏倭王」の称号や金印、多数の銅鏡を授かった政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 秋田県公立入試 類似)
1. 魏の優れた律令制度をそのまま日本に導入し、中央集権国家をいち早く確立するため 2. 魏と共同で朝鮮半島の高句麗を攻撃し、領土を拡大するための軍事同盟を結ぶため 3. 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため 4. 魏の強力な軍勢力を日本に直接呼び寄せ、九州地方の反乱勢力を武力で鎮圧するため
- 問10 中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、1世紀半ばの57年に倭の奴国の王が使者を送り、皇帝から印綬（印と紐）を授かったという記述があります。このとき授けられたとされる「漢委奴国王」と刻まれた金印が、江戸時代に発見された現在の福岡県にある場所はどこですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
1. 種子島 2. 対馬 3. 壱岐 4. 志賀島
- 問11 弥生時代の遺跡で見つかる特徴のうち、当時の社会において集団間の緊張や争いがあったことを最も直接的に示しているものはどれですか。 (2021年 愛知県公立入試 類似)
1. 収穫した稲の穂を効率よく摘み取るために使用された、平らな石に穴を開けた石包丁 2. 祭祀や宝物として用いられたと考えられる、複雑な文様が描かれた青銅製の銅鐸や銅鏡 3. 湿気やネズミの被害から穀物を守るために、柱にねずみ返しを設けた床の高い建物 4. 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡
- 問12 紀元前後の日本（倭）が100余りの小国に分かれていた時代、現在の福岡県付近にあった「奴国」の王が使者を派遣し、皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられたとされる中国の王朝を選びなさい。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
1. 唐 2. 漢 3. 元 4. 宋

答え合わせ・解説

問1	答え 3 豊作などを願うための祭祀の道具	弥生時代に伝わった青銅器には、銅鐸のほか銅剣や銅矛などがありますが、これらは実戦で使う武器ではなく、主に祭りの道具（祭祀具）として用いられました。当初は内部に「舌（ぜつ）」を吊るして音を鳴らす鐘として使われていましたが、次第に大型化し、地中に埋めたり飾ったりして、豊作を祈る象徴的な役割へと変化していきました。
問2	答え 2 『漢書』地理志には、倭人が100余りの国に分かれて生活し、定期的に朝鮮半島の楽浪郡へ使節を送っていたことが記されている。	紀元前1世紀頃の日本の様子は、前漢の歴史を記した『漢書』地理志に「倭人は100余りの国に分かれていた」と記録されています。一方、1世紀半ば（紀元57年）に奴国の王が金印を授かった記録は『後漢書』東夷伝に、3世紀の卑弥呼に関する記録は『魏志』倭人伝（『三国志』の一部）に記されており、書物と時代・内容を正しく区別する必要があります。
問3	答え 3 土地や水の利用、蓄えた食料などをめぐって、ムラの間で争いが起こるようになった。	稲作が普及すると、生産力の向上により食料の蓄え（余剰生産物）ができるようになりました。これにより、蓄えの多寡による貧富の差や身分の違いが生まれるとともに、稲作に不可欠な土地や水の利権をめぐって集落（ムラ）同士の争いが発生するようになりました。こうした争いを通じて、次第に多くのムラを統合する小国が形成されていきました。
問4	答え 1 大人（たいじん）と下戸（げこ）という身分の差があり、租税を納める仕組みがあった	『魏志倭人伝』の記述からは、当時の倭には「大人」や「下戸」と呼ばれる明確な身分階級が存在し、租税（税金）の徴収や市場での交易が行われていたことが分かります。これは、単なる集落の集まりではなく、ある程度組織化された国家としての仕組みが整い始めていたことを示しています。
問5	答え 2 食料の保存が可能になったことで、蓄えの多寡による富の差や、土地や水をめぐる争いが生じるようになった。	稲作によって収穫された米は、それまでの狩猟・採集による食料とは異なり、長期保存が可能でした。これが余剰生産物としての「富」を生み、それを管理するリーダーの出現や、有利な土地を確保するための集落間の紛争、さらには身分の格差へとつながり、社会の構造を大きく変える要因となりました。
問6	答え 4 自らの権威を高めるために中国と通じ、皇帝から「親魏倭王」の称号を授かった。	卑弥呼は、中国の王朝である魏に使者を送ることで、当時の先進国である中国の皇帝から自らの統治を認めてもらおうとしました。その結果、魏の皇帝から「親魏倭王（しんぎわおう）」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしたと考えられています。
問7	答え 1 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問8	答え 3 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問9	答え 3 魏の後ろ盾を得ることで自らの権威を高め、国内の統治や他国との関係を有利に進めるため	卑弥呼が魏に朝貢したのは、当時アジアで強大な勢力を持っていた中国の皇帝から「王」として認められることで、国内の他の勢力に対して自分の正当性を示す目的がありました。金印や銅鏡といった贈り物は、その権威を視覚的に周囲へ誇示するための重要な道具として利用されました。
問10	答え 4 志賀島	1784年に福岡県の志賀島で農作業中に偶然発見された金印は、縦横約2.3cmの純金製で、「漢委奴国王」の五文字が刻まれていました。これは『後漢書』にある「建武中元二年、倭の奴国、貢を奉じて朝貢す…光武、賜うに印綬を以てす」という、後漢の光武帝が奴国の王に印を与えたとする記述を証明する非常に重要な歴史的発見となりました。
問11	答え 4 集落を二重、三重に囲む深い堀や、尖った杭を並べた逆茂木（さかもぎ）の跡	石包丁は農業技術、銅鐸は祭祀、高床倉庫は貯蔵に関する特徴ですが、環濠集落における深い堀や柵（逆茂木）は、純粹に軍事的な防衛を目的としています。吉野ヶ里遺跡などでは、こうした強固な防御施設に加えて、敵を監視するための物見やぐらも確認されており、弥生時代の社会が戦乱の影響を強く受けていたことを物語っています。
問12	答え 2 漢	紀元前1世紀ごろ、倭（日本）は100余りの国に分かれていました。1世紀半ば（紀元57年）には、その中の一つである奴国の王が中国の王朝である漢（後漢）に使者を送り、皇帝（光武帝）から金印を授かりました。この事実は中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記録されています。

- 問1 弥生時代に本格的に始まった稲作において、収穫の際に用いられた石包丁の使用方法について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）
- | | | | |
|-----------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|
| 1. 稲を根元から刈り取るために用いられた | 2. 土を掘り返して苗を植えるために用いられた | 3. 収穫した後の脱穀を行うために用いられた | 4. 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた |
|-----------------------|-------------------------|------------------------|------------------------|
- 問2 邪馬台国の女王卑弥呼に関する記述として、最も適当なものはどれか。（2016年 北海道公立入試 類似）
- | | | | |
|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1. 摂政である聖徳太子とともに、冠位十二階や十七条の憲法を定めた。 | 2. 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。 | 3. 日本で初めて本格的な都城である藤原京を造営し、国家体制を整えた。 | 4. 夫である天皇の死後、軍を率いて朝鮮半島へ出兵したという伝説がある。 |
|------------------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|--------------------------------------|
- 問3 弥生時代の社会状況を示す事例として、香川県にある紫雲山遺跡のように、瀬戸内海を一望できる高い山の上に作られた「高地性集落」があります。卑弥呼が邪馬台国を治めていた時期を含め、このような特殊な場所に集落が作られた理由として、当時の社会背景を説明したものを選びなさい。（2021年 香川県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|--|--|--|
| 1. 遣隋使や遣唐使として派遣される人々を、高い場所から見送る儀式を行うため。 | 2. 大陸から伝来した仏教を修行するための山岳寺院を建てる必要があったため。 | 3. 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。 | 4. 白村江の戦いで敗れた後、唐や新羅の侵攻に備えて防衛拠点としての城を築いたため。 |
|---|--|--|--|
- 問4 弥生時代に造られた、掘立柱によって床を高い位置に設けた建築物の特徴と目的について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2021年 佐賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 貴族が政治や生活を行うための住居として、池を中心とした広い庭園に面して複数の建物が廊下で結ばれた。 | 2. 地面を円形や方形に掘り下げ、その上に屋根をかけた人々の住居として、防寒性を高める工夫がなされた。 | 3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うための施設として、屋根に瓦をふき、床に石を敷き詰めて造られた。 | 4. 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。 |
|--|---|--|--|
- 問5 表面に当時の生活の様子や動植物、流水文などの模様が描かれ、上部に「鈕（ちゅう）」と呼ばれる持ち手のような部分がついている、弥生時代の祭祀用青銅器の名称は何か。（2026年 新潟県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 1. 銅矛 | 2. 銅鐸 | 3. 埴輪 | 4. 銅戈 |
|-------|-------|-------|-------|
- 問6 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器について、武器や工具として実用的に使われた鉄器に対し、主に豊作を祈る祭りなどの祭祀（儀式）に用いられたものを総称して何といいますか。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------|-------|-------|---------|
| 1. 青銅器 | 2. 鉄器 | 3. 埴輪 | 4. 磨製石器 |
|--------|-------|-------|---------|
- 問7 古代の東アジアにおいて、倭（日本）などの周辺諸国の首長や国王が、中国の皇帝に使役を送り、貢物を捧げた外交形式を何と呼びますか。この形式において、使者は中国の皇帝からその地域の支配権を認められ、称号や金印を授かることで、自らの権威を高めようとしていました。（2024年 宮崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|-------|-------|-------|---------|
| 1. 朝貢 | 2. 冊封 | 3. 通商 | 4. 民間貿易 |
|-------|-------|-------|---------|
- 問8 3世紀の中国の歴史書である『魏志倭人伝』には、当時の日本（倭）の様子が記されています。それによると、倭ではもともと男子を王としていましたが、国が乱れて互いに攻め合う状態が数年続きました。この混乱を収めるためにとられた歴史的な経緯として正しいものはどれですか。（2020年 徳島県公立入試 類似）
- | | | | |
|---------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------------|
| 1. 中国の魏から派遣された総督が直接統治を行った | 2. 匈奴国の王が武力によって全ての小国を制圧した | 3. 一人の女性を王として共立し、国をまとめた | 4. 仏教を国教として導入し、人々の信仰によって乱れを鎮めた |
|---------------------------|---------------------------|-------------------------|--------------------------------|
- 問9 鳥取県の青谷上寺地遺跡などの出土品をまとめた資料では、木製品や骨角器とともに、石器、金属器、そしてこの時代の特徴的な土器が並んで示されています。これらの道具が併用されていた弥生時代の土器に見られる、縄文土器と比較した際の外見上の特徴として、最も適切なものはどれか。（2016年 鳥取県公立入試 類似）
- | | | | |
|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である | 2. 表面に縄目のような力強い文様がつけられ、全体的に厚手である | 3. 仏教の儀式に用いるために、表面に金色の装飾や仏像が描かれている | 4. 青灰色をしており、非常に硬く焼かれた朝鮮半島由来の技術で作られている |
|--------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|
- 問10 弥生時代に大陸から日本列島へ伝わった金属器の特色について、銅鐸の性質をふまえて説明したものととして、最も適切なものはどれですか。（2022年 群馬県公立入試 類似）
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 青銅器は、鉄器よりも硬く鋭いため、主に開墾用の農具や実戦用の武器として普及した | 2. 銅鐸は文字を記録するための道具として開発され、当時の律令制度を庶民に伝えるために使われた | 3. 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった | 4. 銅鐸に代表される青銅器は、古墳時代になってから初めて製作され、巨大な墓に副葬された |
|--|---|--|--|
- 問11 卑弥呼が中国の魏に使役を送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2017年 長崎県公立入試 類似）
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 中国の律令制度を日本に持ち帰り、戸籍の作成や租・庸・調の税制を整えるための助言を求めたため。 | 2. 中国の皇帝から統治者としての権威を認められることで、国内の諸勢力との争いを有利に進め、統治を安定させようとしたため。 | 3. 中国から仏教を公式に導入し、宗教の力を用いて人々の思想を統一し、中央集権的な国家を築こうとしたため。 | 4. 魏の軍勢力を借りて朝鮮半島の国々を征服し、鉄資源を独占して経済的な優位性を確立しようとしたため。 |
|---|---|---|---|
- 問12 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使役を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2025年 長野県公立入試 類似）
- | | | | |
|----------------------------|------------------------------|---------------------|-------------------------|
| 1. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 | 2. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符 | 3. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 | 4. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀 |
|----------------------------|------------------------------|---------------------|-------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 稲の穂の部分を摘み取るために用いられた	弥生時代前期の収穫方法である「穂首刈り」に関する問いです。当時は稲が実る時期が一定ではなかったため、実った稲の穂だけをつつ石包丁で摘み取っていました。根元から刈り取る方式は、後に鉄製の鎌が普及するまで一般的ではありませんでした。
問2	答え 2 魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や多数の銅鏡を授かった。	『魏志』倭人伝には、卑弥呼が239年に魏へ使いを送り、その返礼として金印や銅鏡100枚を与えられたと記されています。他の選択肢は、それぞれ推古天皇、持統天皇、神功皇后に関連する内容であり、卑弥呼の事績ではありません。
問3	答え 3 稲作が普及する中で、土地や水をめぐる集落間の争いが激化し、防衛や監視に有利だったため。	弥生時代は稲作による余剰生産物が生じたことで、富の蓄積や階級の差が生まれ、各地で土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。瀬戸内海沿岸の山頂付近にある紫雲山遺跡のような高地性集落は、敵の動きをいち早く察知し、集落を守るための軍事的な拠点としての役割を担っていました。中国の歴史書に記された「倭国大乱」も、こうした激しい社会状況を裏付けています。
問4	答え 4 収穫した稲を貯蔵するために造られ、湿気を防ぎ、ネズミなどの害獣の侵入を防ぐ工夫が施された。	弥生時代に稲作が普及すると、収穫した稲を長期間保存する必要が生じました。高床（式）倉庫は、地面からの湿気が直接伝わって米が腐敗するのを防ぐために床を高く設計しています。また、梯子（はしご）を使って出入りする構造になっており、柱の上部には「ネズミ返し」と呼ばれる板を取り付けることで、貯蔵した食料を害獣から守る工夫がなされていました。
問5	答え 2 銅鐸	銅鐸は、その形状から「鐘」のような役割を持っていたと推測されています。初期のものは音を鳴らすために小規模でしたが、時代が下るにつれて大型化し、村の祭りで見せるための宝物としての性格が強めていきました。
問6	答え 1 青銅器	弥生時代には、大陸から稲作とともに金属器の文化が伝来しました。硬くて鋭い鉄器が武器や農具として実生活で役立てられたのに対し、美しく光る青銅器は神聖なものとして扱われ、村の祭りや儀式で使われる宝物としての役割を担いました。
問7	答え 1 朝貢	中国を中心とした国際秩序の中で、周辺諸国の君主が中国の皇帝に対して臣下の礼をとり、貢物を捧げる行為を指します。これにより、周辺諸国の君主は中国皇帝から国内の支配権を正当化する称号（官職や王号）を得ることができました。設問にある「称号や金印を授かること」は、この外交関係に伴う重要な政治的プロセスです。
問8	答え 3 一人の女性を王として共立し、国をまとめさせた	当時の倭（日本）では、小国同士が激しく争う「倭国大乱」と呼ばれる時期がありました。この混乱を収拾するため、複数の小国が連合し、まじないや宗教的な権威を持つ卑弥呼を女王として立てることで国内の安定を図ったことが『魏志倭人伝』に記されています。
問9	答え 1 表面に細目の文様がつけられ、全体的に薄手で実用的である	弥生土器は、装飾が豊かだった縄文土器と比較して、表面に細目の文様が施されるなどデザインが簡素化され、調理や貯蔵に適した薄くて機能的な形状へと変化しました。青谷上寺地遺跡のように、金属器や木製品など多様な道具が登場した背景には、稲作を中心とした計画的な生産活動への移行があります。
問10	答え 3 青銅器は、鉄器に比べて祭礼や儀式に用いられる傾向が強く、銅鐸もその一種であった	弥生時代には、青銅器と鉄器がほぼ同時に大陸から伝わりました。実用的な道具として、鋭利な刃物が必要な武器や工具には「鉄器」が主に使われた一方で、光沢があり希少な「青銅器」は、銅鐸や銅鏡、銅剣（儀礼用）のように、祭礼や集落の権威を示すための道具として使い分けられました。銅鐸は特に稲作の豊穡を願う集落の共同祭祀に深く関わっていました。
問11	答え 2 中国の皇帝から統治者としての権威を認められることで、国内の諸勢力との争いを有利に進め、統治を安定させようとしたため。	弥生時代後期の倭国は、多くの小国が乱立し争い合う「倭国大乱」と呼ばれる時代を経て、卑弥呼を女王として共立することで一時的な平和を得ていました。卑弥呼は、当時中国で最も勢力の強かった魏と外交を結ぶことで、その強大な威光を背景に国内の統治をより確固たるものにしようとする外交戦略をとりました。
問12	答え 3 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。

- 問1 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|---|
| 1. 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所で常に監視を行うため。 | 2. 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。 | 3. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。 | 4. 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。 |
|--|---|--|---|
- 問2 1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。 (2026年 山口県公立入試 類似)
- | | | | |
|------|------|------|------|
| 1. 秦 | 2. 漢 | 3. 隋 | 4. 魏 |
|------|------|------|------|
- 問3 弥生時代に大陸から稲作が伝来して定住生活が広まると、集落（ムラ）の間で大規模な争いが発生するようになりました。縄文時代の狩猟・採集中心の生活ではあまり見られなかったこのような対立が、弥生時代に激化した主な理由として適切なものはどれですか。 (2024年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|--------------------------------------|
| 1. 獲物を追って移動する範囲を広げる中で、獲物の所有権をめぐって対立したため | 2. 気候の寒冷化によって木の実などの食料が激減し、採集場所を奪い合ったため | 3. 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため | 4. 大陸から伝来した仏教の布教をめぐり、信仰の違いから衝突が起きたため |
|---|--|--|--------------------------------------|
- 問4 弥生時代に大陸から稲作とともに伝えられた金属器のうち、強度が非常に高く、主に武器や工具、木製農具の刃先などの実用的な道具として用いられたものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|-------|--------|---------|
| 1. 打製石器 | 2. 鉄器 | 3. 青銅器 | 4. 磨製石器 |
|---------|-------|--------|---------|
- 問5 5世紀、倭の五王が中国の南朝である「宋」へたびたび使者を送った目的として、当時の東アジア情勢を踏まえた説明として最も適切なものはどれか。 (2016年 岐阜県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。 | 2. 邪馬台国内での争いを鎮めるために、中国の強力な軍隊を日本国内へ招き入れるため。 | 3. 福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印を、宋の皇帝に返還するため。 | 4. 遣隋使の派遣に先立ち、中国の進んだ律令制度や仏教を日本に導入する許可を得るため。 |
|---|--|--|---|
- 問6 1世紀半ば、日本の小国の一つであった奴国の王が、中国の王朝である後漢へ使者を送った時期の社会状況として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 狩猟や採集を生活の中心とし、ナウマンゾウなどの大型動物を追って移動を繰り返す生活を送っていた。 | 2. 仏教による国家の安定を図るため、聖武天皇の命によって全国各地に国分寺や国分尼寺が建立された。 | 3. 巨大な前方後円墳が築造されるようになり、その周囲には死者を供養するための埴輪が並べられた。 | 4. 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐる集落間の争いが起こるようになった。 |
|--|---|--|--|
- 問7 1世紀半ば、倭の奴国の王が、危険を冒してまで当時の中国の王朝であった漢（後漢）に使節を送り、皇帝から金印を授かった政治的な背景・目的として最も適切なものはどれですか。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 中国で発明されたばかりの青銅器や鉄器の製造技術を独占し、列島全体を武力で統一するため | 2. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらい、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため | 3. 中国で当時流行していた仏教を正式に日本へ導入し、宗教的な力によって国内の混乱を鎮めるため | 4. 中国で起きていた大規模な農民反乱を鎮圧するために、倭の軍勢力を提供して同盟関係を築くため |
|---|---|---|---|
- 問8 弥生時代に大陸から伝わった技術や文化が、当時の社会に与えた影響を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2022年 鹿児島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 狩猟や採集がより効率的になり、人々は移動を繰り返しながら竪穴住居に住んだ。 | 2. 青銅器が実用的な農具として普及したことで、開墾が進み全国的な統一国家が誕生した。 | 3. 巨大な前方後円墳を築くための高い土木技術が伝わり、各地に大規模な古墳が作られた。 | 4. 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。 |
|--|---|---|---|
- 問9 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。 (2025年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------------------------|------------------------------|---------------------|----------------------------|
| 1. 「倭王」の称号と、百濟から贈られた七支刀 | 2. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符 | 3. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡 | 4. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印 |
|-------------------------|------------------------------|---------------------|----------------------------|
- 問10 3世紀の倭国の女王である卑弥呼が、中国の王朝である魏に使いを送った目的として、当時の政治的な背景から説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---|--------------------------------------|
| 1. 隋の皇帝に対して、対等な外交関係を築くことを求めるため | 2. 大陸の進んだ文化や制度を直接学び、仏教を日本に広めるため | 3. 魏の皇帝から倭国の王としての正当性を認められ、国内の統治を安定させるため | 4. 元との貿易を円滑に進めるために、港の整備や通貨の流通を依頼するため |
|--------------------------------|---------------------------------|---|--------------------------------------|
- 問11 1世紀頃の東アジアにおいて、中国の皇帝が周辺国の支配者に対して「みつぎ物」の見返りとして「称号」や「印」などを与える国際秩序がありました。倭の王が中国へ使いを送った歴史的背景や目的として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 仏教などの新しい宗教を中国から正式に導入し、国を治めるための思想として活用しようとした。 | 2. 中国と対等な立場で外交関係を築き、軍事的な同盟を結ぶことで領土を拡大しようとした。 | 3. 朝鮮半島北部の小国として、中国の強力な武力による直接支配から逃れるための許可を求めた。 | 4. 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。 |
|---|--|--|---|
- 問12 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2018年 奈良県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|--|
| 1. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。 | 2. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。 | 3. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。 | 4. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。 |
|---|---------------------------------------|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 稲作の普及により土地や水をめぐると争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。	弥生時代には稲作が本格化し、蓄えられた食料や、稲作に適した土地・水をめぐると集落間の争い（戦争）が発生するようになりました。吉野ヶ里遺跡で見られる深い堀（環濠）や、高い場所から敵の侵入をいち早く察知するための物見やぐらは、集落を外敵から守るための軍事的な役割を果たしていました。仏教の伝来や中央集権体制の確立は、のちの飛鳥時代以降の出来事です。
問2	答え 2 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問3	答え 3 水田を耕作するための土地や、農業に欠かせない水の利権を確保しようとしたため	稲作が始まると、安定して米を生産するために、日当たりの良い土地や灌漑に必要な水の確保が死活問題となりました。これらをめぐって集落間で利害が対立したことが、組織的な武力衝突へと発展しました。また、収穫した米を蓄積できるようになったことで、貧富の差や権力の差が生じたことも争いの一因です。
問4	答え 2 鉄器	弥生時代には大陸から鉄器と青銅器という二種類の金属器が同時に伝わりました。青銅器が祭祀（祭り）や儀式のための道具として用いられたのに対し、鉄器は硬度が高く鋭い刃物を作ることができたため、戦いのための武器や、木材を加工する工具、開墾効率を高めるための農具の刃先として幅広く活用されました。
問5	答え 1 朝鮮半島における軍事的な指揮権や外交的な立場を、中国の皇帝に公認してもらうため。	5世紀の倭（ヤマト政権）は、国内の統一を進めるとともに、鉄資源の確保などを求めて朝鮮半島への進出を強めていました。倭の五王は、朝鮮半島における百濟や加耶（加羅）に対する軍事的な影響力や外交的な地位を中国の皇帝に認めてもらう（官爵を得る）ことで、他国や国内の諸勢力に対して自らの正当性を主張しようとした。
問6	答え 4 大陸から伝わった稲作や金属器の使用が広まり、食料の蓄えや土地をめぐると集落間の争いが起こるようになった。	紀元前後の弥生時代には、大陸から稲作技術や金属器（青銅器・鉄器）が伝来し、生産力が向上しました。これに伴い、余剰生産物の蓄えや水田に適した土地をめぐって集落同士の争いが発生し、各地に小国が形成されました。奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り「漢委奴国王」の金印を授かったのは、こうした国内の勢力争いの中で中国の王朝を後ろ盾にしようとする意図があったと考えられています。
問7	答え 2 中国の皇帝から王としての地位を認められ、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立していました。奴国の王は、強大な力を持つ中国の王朝に使節を送り、皇帝に貢ぎ物を届けることで「王」としての承認（冊封）を受けました。授けられた金印は、中国皇帝の威光を背景に自らの支配の正当性を周囲に示すための重要な道具として機能しました。なお、仏教の伝来は6世紀、武力による統一の動きが加速するのは3世紀以降のことです。
問8	答え 4 稲作の普及により食料の蓄えが可能になり、貧富の差や集団をまとめる王が現れた。	稲作の開始は、単なる食生活の変化にとどまらず、社会構造に劇的な変化をもたらしました。収穫した米を蓄えることで余剰生産物が生まれ、それを管理・所有する層が現れたことで、貧富の差や身分の違い（階級）が生じました。その結果、小国を治める王のような強力な指導者が登場し、中国の歴史書にある「100余りの国」のような政治的なまとまりが形成される要因となりました。なお、青銅器は主に祭祀用であり、実用的な農具は鉄器が担いました。
問9	答え 3 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授けられました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。
問10	答え 3 魏の皇帝から倭国の王としての正当性を認められ、国内の統治を安定させるため	卑弥呼は国内の多くの国々を従えていましたが、その権威をより強固なものにするために、当時中国で強大な勢力を持っていた魏の力を利用しました。「親魏倭王」という称号を授かることで、外部の強力な後ろ盾があることを国内に示し、他の国々に対する優位性を確保しようとしたと考えられています。
問11	答え 4 中国の皇帝に臣下として認められることで、自らの支配者としての地位を国内や周辺に示そうとした。	当時の倭の王は、東アジアで圧倒的な権威を持っていた中国の皇帝に「朝貢」し、その臣下として認められる（冊封を受ける）ことで、自らの支配の正当性を強化しようとした。これは対等な外交ではなく、中国を中心とした主従関係に基づく国際秩序の中に組み込まれることを意味しています。
問12	答え 1 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されたりしました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。

- 問1 兵庫県神戸市の桜ヶ丘町などで出土した、釣り鐘のような独特の形をした弥生時代の青銅器について述べた文として、最も適切なものはどれですか。なお、この青銅器の表面には、当時の生活の様子や幾何学的な文様が描かれていることがあります。 (2021年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| 1. 縄文時代の集落で見つかる、魔除けのために作られた土偶である | 2. 古墳の副葬品として納められた、馬に装着する鉄製の装具である | 3. 魏の皇帝から邪馬台国の女王に贈られたとされる銅鏡である | 4. 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である |
|----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
- 問2 稲作が朝鮮半島から伝わり、人々の生活が変化した時代に使用された道具の説明として、最も適切なものはどれですか。 (2018年 北海道公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------|----------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 1. 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた | 2. 権力者の墓の周囲に並べるために、埴輪が作られた | 3. 日本独自の貨幣として、富本銭が発行された | 4. 魔除けや食物の豊かさを祈り、土製の人形である土偶が作られた |
|--------------------------------|----------------------------|-------------------------|----------------------------------|
- 問3 紀元前後に位置する東アジアの歴史を記した年表において、1世紀半ばに日本の「倭」の中にあった「奴国」の王が、ある中国の王朝に使節を送り、その証として金印を授けられたという記述があります。この時、奴国の王が使節を送り、金印を授かった王朝の名称として正しいものを選びてください。 (2025年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|------|------|------|
| 1. 漢（後漢） | 2. 隋 | 3. 秦 | 4. 魏 |
|----------|------|------|------|
- 問4 西暦57年から16世紀末までの歴史的な出来事をまとめた年表において、3世紀の項目に「倭の女王が魏に使いを送る」という記述があります。この時、女王卑弥呼が中国の王朝と外交関係を結んだ主な背景や目的として最も適切なものはどれですか。 (2019年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. 中国で確立されていた律令制度を学び、天皇を中心とした中央集権国家をいち早く形成するため | 2. 鉄資源を独占するために、朝鮮半島南部の任那（加羅）に日本府を設置する許可を得るため | 3. 仏教を正式な国教として導入するために、大陸から僧侶を招き、寺院建設の支援を受けるため | 4. 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため |
|--|--|---|--|
- 問5 弥生時代に大陸から稲作とともに伝わった金属器のうち、硬くて鋭利な特徴を活かして、木工具や農具、武器などの実用的な道具として広く普及したものは何ですか。 (2016年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|-------|-------|
| 1. 青銅器 | 2. 土器 | 3. 鉄器 | 4. 石器 |
|--------|-------|-------|-------|
- 問6 弥生時代に大陸から稲作が伝わると、収穫のための道具として磨製石器の一種が広く使われるようになりました。中央に2つの小さな穴が開いた半月形の形状をしており、稲の穂先のみを摘み取るために使用されたこの道具の名称を選びなさい。 (2024年 秋田県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|-------|---------|--------|
| 1. 尖頭器 | 2. 鉄鎌 | 3. 磨製石斧 | 4. 石包丁 |
|--------|-------|---------|--------|
- 問7 弥生時代には青銅器と鉄器がほぼ同時に日本列島へ伝わりました。それぞれの金属器が果たした役割の違いについて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 青銅器は前方後円墳に埋葬するための副葬品として作られ、鉄器は神社の建築のために使われた | 2. 青銅器は加工のしやすさを活かして農具や工具として普及し、鉄器は主に祭りの道具として使われた | 3. 鉄器は定期市での取引を円滑にするために使われ、青銅器はイスラム教の礼拝の道具として使われた | 4. 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた |
|--|--|--|---|
- 問8 弥生時代の遺跡から発掘される人骨に見られる特徴のうち、当時の社会において集落間の対立が激化したことを示す根拠として正しいものはどれですか。 (2022年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 人骨の周囲に、祭祀に用いられたと考えられる銅鐸や銅剣が大量に並べられていること | 2. 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること | 3. 骨の成分分析から、家畜の肉を主食としていたことが判明し、獲物の奪い合いが推測されること | 4. 人骨が、身分に応じた大きさや形の異なる前方後円墳などの古墳から発見されること |
|--|--|--|---|
- 問9 1世紀に倭の奴国の王が中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授かった背景として、当時の小国の王たちの目的を説明したものとして最も適切なものはどれですか。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|--|---|
| 1. 遣隋使や遣唐使のように、進んだ律令制度を学び取り、日本独自の憲法を制定するため。 | 2. 仏教などの新しい宗教を中国から導入し、国民の精神的な団結を図るため。 | 3. 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。 | 4. 中国からの軍事支援を直接受け、近隣諸国を武力で一気に統一しようと考えたため。 |
|---|---------------------------------------|--|---|
- 問10 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。 (2021年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 1. 前方後円墳 | 2. 環濠集落 | 3. 高床倉庫 | 4. 竪穴住居 |
|----------|---------|---------|---------|
- 問11 3世紀頃の倭国において、邪馬台国を中心に30ほどの国々をまとめ、中国の魏から「親魏倭王」の称号や金印を授けられた人物は誰ですか。 (2020年 埼玉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| 1. 推古天皇 | 2. 卑弥呼 | 3. 持統天皇 | 4. 北条政子 |
|---------|--------|---------|---------|
- 問12 弥生時代に大陸から伝えられた金属器のうち、銅鐸や銅剣などの青銅器は、主にどのような目的で使用されていたと考えられますか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------|-------------------------------------|
| 1. 都の東西に置かれた市で、布や米と交換される通貨として用いられた | 2. 土地を耕したり木を加工したりする実用的な工具として用いられた | 3. 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた | 4. 食物を煮炊きしたり、貯蔵したりするための生活容器として用いられた |
|------------------------------------|-----------------------------------|------------------------|-------------------------------------|
- 問13 弥生時代に稲作が広まったことで、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を外敵からの攻撃から守るために、周囲に深い堀を掘り、木の柵を設置した集落を何と呼びますか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|-----------|----------|---------|---------|
| 1. 三内丸山遺跡 | 2. 石舞台古墳 | 3. 高床倉庫 | 4. 環濠集落 |
|-----------|----------|---------|---------|
- 問14 弥生時代、稲作が西日本から東日本へと普及して食糧の蓄えができるようになると、各地で土地や水をめぐる争いが起こり、小さな国々が誕生しました。こうした中、倭の奴国の王が中国の王朝へ使いを送った目的や背景として最も適切な説明を選びなさい。 (2022年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。 | 2. 鉄製農具や須恵器の製作技術を独占し、縄文時代から続く狩猟・採集の生活をより豊かにしようとした。 | 3. 巨大な前方後円墳を築造するための最新技術を導入し、日本列島全体の統一を早急に成し遂げようとした。 | 4. 土偶を用いた独自の祭祀を中国に認めてもらうことで、大陸での宗教的な影響力を拡大しようとした。 |
|--|--|---|---|

答え合わせ・解説

問1	答え 4 狩猟や農耕の様子が描かれた、祭祀に用いられた銅鐸である	釣り鐘状の青銅器は銅鐸と呼ばれ、弥生時代の文化を象徴する遺物です。銅鐸の表面には、当時の人々が狩りをする姿や、高床倉庫、稲作の様子などが浮き彫りで描かれているものがあり、文字のない時代の生活を知るための重要な手がかりとなっています。縄文時代の土偶や、古墳時代の鉄製武器とは時代や特徴が異なります。
問2	答え 1 豊作を祈る祭りなどのために、青銅器である銅鐸が使われた	稲作が始まり、金属器が使用され始めたのは弥生時代です。この時代には、実用的な鉄器とともに、祭祀用として銅鐸などの青銅器が作られました。土偶は狩猟採集中心の縄文時代、埴輪は古墳時代、富本銭は飛鳥時代のもんです。
問3	答え 1 漢（後漢）	1世紀半ばにあたる57年に、倭の奴国の王が中国の王朝である「漢（後漢）」に使節を送り、光武帝から金印を授けられたことが、中国の歴史書である『後漢書』東夷伝に記されています。この金印は、江戸時代に現在の福岡県にある志賀島（しかのしま）で発見され、「漢委奴国王」という文字が刻まれていました。
問4	答え 4 中国の皇帝から王としての地位を認められることで、国内の統治や周辺諸国との関係を有利に進めるため	当時の倭（日本）は多くの小国が分立し、争いが続いていた時期でした。邪馬台国の女王である卑弥呼は、当時の中央アジアから東アジアにかけて強大な勢力を持っていた魏の皇帝に朝貢し、自らを王として承認（冊封）してもらうことで、その権威を背景に国内の連合体制を強化しようと考えました。これは、中国の皇帝を中心とした国際秩序を利用した外交政策の一環です。
問5	答え 3 鉄器	大陸から伝わった金属器には鉄器と青銅器がありますが、その性質の違いによって用途が分かれていました。青銅器が主に祭りや儀式の道具として用いられたのに対し、鉄器は木材を加工する工具や、土地を耕すための農具、戦いのための武器といった実用的な用途で使われました。これにより食料の生産力が大幅に向上しました。
問6	答え 4 石包丁	弥生時代に稲作が本格化する中で、収穫用具として石包丁が誕生しました。石を磨いて作られた磨製石器で、穴に紐を通して指に固定し、手のひらで包むようにして稲の穂を一つひとつ摘み取る「穂首刈り（ほくびがり）」が行われました。のちの時代に鉄製の鎌が普及するまでは、この石包丁が収穫の主役でした。
問7	答え 4 鉄器は鋭さや硬さを活かして農具や武器などの実用に供され、青銅器は主に祭りの道具として使われた	鉄は青銅よりも硬くて丈夫であるため、木製農具の先を補強する工具や、鋭利な刃物としての武器といった実用的な道具に用いられました。一方で、青銅器は独特の光沢を持つことから権威の象徴や祭りにおける神聖な道具としての性格を強め、鉄器と青銅器で「実用」と「儀礼」という役割の分担がなされました。
問8	答え 2 骨に武器による殺傷跡があったり、本来あるはずの頭部がない状態で発見されたりすること	弥生時代の遺跡では、戦いによって傷ついた人骨や、鋭利な道具で切断された跡がある人骨がしばしば発見されます。これは、土地や水をめぐる「争い」が社会的に定着したことを示す考古学的な証拠です。銅鐸は祭りや儀式に用いられた道具であり、争いの直接的な証拠ではありません。また、古墳に埋葬されるようになるのは後の古墳時代の特徴であり、弥生時代の争いの証拠とは区別する必要があります。
問9	答え 3 中国の皇帝から地位を認められることで、自国の権威を高め、周囲の国々に対して有利に立つため。	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立しており、奴国のような小国の王は、強大な勢力を持つ中国（後漢）の皇帝に朝貢（貢物を届けること）して「臣下」としての形をとることで、自らの支配の正当性や地位を国際的に裏付けてもらおうとしました。福岡県の志賀島で見つかった金印は、このような当時の国際関係（冊封体制）の実態を象徴する資料です。
問10	答え 3 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問11	答え 2 卑弥呼	3世紀の日本について記した中国の歴史書『魏志倭人伝』によると、卑弥呼という女王が邪馬台国を統治していたとされています。彼女は魏の皇帝から「親魏倭王」という称号や金印、多数の銅鏡などを授かり、自らの権威を国内に示すとともに、外交的な地位を確立しました。
問12	答え 3 集団の祭祀や祭りの道具として用いられた	弥生時代に鉄器とともに大陸から伝わった青銅器は、鉄器が武器や工具として実用的に使われたのに対し、銅鐸や銅剣などは音を鳴らしたり飾ったりする祭礼用の道具として用いられました。稲作の普及にとともに、豊作を祈るなどの集団の儀式が重要になった背景があります。なお、食物を煮炊きする道具としては、この時代は弥生土器が、のちの時代には須恵器などが用いられました。
問13	答え 4 環濠集落	弥生時代には、食料の備蓄や土地の所有をめぐって集落間での争いが生じました。そのため、集落の防御機能を高めるために周囲を堀や柵で囲む工夫がなされました。代表的な遺跡として、佐賀県の吉野ヶ里遺跡が有名です。
問14	答え 1 中国の後漢の光武帝から金印を授かることで、自らの支配の正当性を背景に権力を強めようとした。	弥生時代の日本では、稲作の普及に伴って貧富の差や対立が生まれ、各地に小国が形成されました。1世紀の57年、倭の奴国の王は中国（後漢）の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授けられました。これは、当時文明の進んでいた中国の皇帝に認められることで、他の小国に対する優位性を保ち、自らの支配権を強化する狙いがありました。選択肢にある鉄製農具や須恵器の普及、前方後円墳の築造は後の時代の特徴であり、土偶は縄文時代の文化です。

- 問1 1世紀半ばの日本（倭）において、九州にあった奴国の王が中国の王朝に使者を送り、皇帝から金印を授けられたという記録が中国の歴史書に残されています。このとき、奴国の王に金印を授けた中国の王朝として正しいものを次の中から選びなさい。（2026年 山口県公立入試 類似）
1. 秦 2. 隋 3. 魏 4. 漢
- 問2 佐賀県に位置する吉野ヶ里遺跡は、集落の周囲に深い濠（ほり）や土塁を巡らせた「環濠集落」の代表例として知られています。このような大規模な防衛施設を持つ集落が弥生時代に造られるようになった社会的な背景として、最も適切な説明はどれか、選びなさい。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
1. 狩猟や採集の効率を上げるために、獲物となる動物を追い込む囲いが必要だったため 2. 頻発する大規模な洪水や高潮から、住居や高床倉庫の浸水を防ぐ必要があったため 3. 仏教の伝来にとともに、寺院を中心とした聖域を保護する必要が生じたため 4. 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため
- 問3 弥生時代に邪馬台国の卑弥呼が、中国の魏に使いを送った政治的な理由として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選択してください。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 律令国家の仕組みを学ぶために、魏の進んだ法制度や官僚機構を日本に導入して中央集権化を図るため。 2. 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。 3. 鉄製農具の使用を全国に普及させるため、魏から大量の鉄資源を安価に輸入する独占的な貿易ルートを確認するため。 4. 日本列島に迫っていた魏の軍事的侵攻を回避するため、多額の貢ぎ物を持参して講和を結ぶため。
- 問4 大陸から稲作の技術が伝わったことで、人々の生活や集落の様子は大きく変化しました。この時期の集落において、収穫した食料を管理・保存するために設けられた特徴的な施設として適切な名称を選びなさい。（2021年 岡山県公立入試 類似）
1. 環濠集落 2. 高床倉庫 3. 竪穴住居 4. 前方後円墳
- 問5 弥生時代の遺跡からは、中央に2つの穴が開いた半月形の石器が数多く出土します。この道具を用いた当時の収穫方法と、その特徴について説明したものとして最も適切なものを選びなさい。（2024年 秋田県公立入試 類似）
1. 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。 2. 石器の鋭い側面を使い、脱穀のために稲の茎から籾をこすり落としていた。 3. 穴に長い木の柄を取り付け、稲を根元から一気に刈り取る「根刈り」を行っていた。 4. 複数の石器を組み合わせ土を掘り起こし、田植えの前の耕作に使用していた。
- 問6 1世紀半ば、倭の奴国の王が、危険を冒してまで当時の中国の王朝であった漢（後漢）に使節を送り、皇帝から金印を授かった政治的な背景・目的として最も適切なものはどれですか。（2025年 愛媛県公立入試 類似）
1. 中国の皇帝から王としての地位を認められ、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため 2. 中国で当時流行していた仏教を正式に日本へ導入し、宗教的な力によって国内の混乱を鎮めるため 3. 中国で起きていた大規模な農民反乱を鎮圧するために、倭の軍勢力を提供して同盟関係を築くため 4. 中国で発明されたばかりの青銅器や鉄器の製造技術を独占し、列島全体を武力で統一するため
- 問7 弥生時代に大陸から稲作の技術とともに伝わった金属器のうち、銅とスズの合金で作られ、主に豊作を祈るなどの祭祀（祭り）の儀式に用いられた道具の総称を何というか。（2022年 島根県公立入試 類似）
1. 土器 2. 打製石器 3. 青銅器 4. 鉄器
- 問8 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
1. 石匙 2. 石包丁 3. 打製石斧 4. 石鏃
- 問9 弥生時代の代表的な遺跡である佐賀県の吉野ヶ里遺跡について、その集落の構造を説明した記述として最も適切なものを次から選びなさい。（2023年 佐賀県公立入試 類似）
1. 交易を円滑にするため、海岸線に沿って長い石垣が築かれ、港の機能を中心としている。 2. 大規模な公共事業を行うため、周囲の山を削って平地を作り、規則正しく住居が並んでいる。 3. 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。 4. 収穫した稲をネズミや湿気から守るため、床を高くした高床倉庫が集落の中心に配置されている。
- 問10 邪馬台国の女王卑弥呼が、当時の中国の王朝である魏に使いを送った背景やその後の状況を説明した文として、最も適切なものを選びなさい。（2023年 山形県公立入試 類似）
1. 倭の奴国の王として、後漢の皇帝から金印を授かり、九州地方の交易の利権を独占しようとした。 2. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。 3. 大陸の優れた仏教文化を直接取り入れるために、公式な使節として小野妹子を魏の都へ派遣した。 4. 秦の始皇帝に対して不老不死の薬を献上することで、国内の争いを鎮めるための軍事支援を求めた。
- 問11 福岡県などで出土した、表面が滑らかで機能的な形をした壺型の土器について、その形状や性質が変化した背景として最も適切なものはどれか。（2026年 北海道公立入試 類似）
1. 青銅器や鉄器が普及したことで土器が使われなくなり、儀式用の飾りとしてのみ作られるようになったから。 2. 狩猟や採集を中心とした移動生活に耐えられるよう、衝撃を吸収するためにあえて厚手に作る技術が途絶えたから。 3. 大陸から伝わった仏教の影響により、華美な装飾を避けて質素な道具を作ることが社会の決まりとなったから。 4. 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。
- 問12 弥生時代に稲作が普及すると、土地や水の利用をめぐる集団間の争いが起こるようになりました。こうした外敵の攻撃から集落を守るために、周囲に深い堀や柵を巡らせた当時の集落の形態を何といいますか。（2021年 愛知県公立入試 類似）
1. 環濠集落 2. 高床倉庫 3. 高地性集落 4. 竪穴住居
- 問13 弥生時代に中国や朝鮮半島から伝わった鉄の利用について、当時の社会に与えた影響を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2018年 奈良県公立入試 類似）
1. 須恵器と呼ばれる硬い土器を焼くために、窯の温度を上げる燃料として利用された。 2. 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。 3. ナウマンゾウなどの大型の獣を捕らえるための、強力な打製石器の材料となった。 4. 土偶の表面を細かく削り出すための彫刻用具として、全国で広く普及した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 漢	中国の歴史書である『後漢書』東夷伝には、西暦57年に倭の奴国の王が使者を送り、光武帝から印綬（金印）を授かったことが記されています。この金印は、江戸時代に福岡県の志賀島で発見された「漢委奴国王」の文字が刻まれたものと一致すると考えられています。設問にある1世紀という時期は、中国では漢（後漢）の時代にあたります。
問2	答え 4 本格的な稲作が始まり、土地や水をめぐる集落間の争いが激しくなったため	弥生時代に大陸から本格的な水稻耕作が伝わると、収穫物の余剰を蓄える「富」が生まれ、それを奪い合う争いが始まりました。吉野ヶ里遺跡に見られる深い濠や逆茂木（さかもぎ）、物見やぐらなどの施設は、敵の侵入を防ぎ、共同体の財産や命を守るために発達した軍事・防衛的な工夫です。
問3	答え 2 「倭国大乱」と呼ばれる国内の激しい争いを鎮め、魏の皇帝から称号を得ることで国内における統治の正当性を示すため。	2世紀後半の日本は「倭国大乱」と呼ばれる激しい内乱状態にありました。これを収めるために共立されたのが女王卑弥呼です。彼女が魏に使いを送った主な目的は、中国という当時の東アジアの超大国から「親魏倭王」という称号を授かることで、国内の他の勢力に対し、自分が正当な支配者であることを誇示することにあります。授かった銅鏡などの宝物も、その権威を裏付ける道具として利用されました。なお、律令制度の導入は飛鳥時代以降の課題であり、この時期の目的ではありません。
問4	答え 2 高床倉庫	弥生時代に稲作が普及すると、人々は安定して食料を得られるようになり、定住生活が進みました。これに伴い、余剰となった収穫物を保存する専用の施設が必要となり、高床倉庫が作られるようになりました。住居として使われた地面を掘り下げた構造の「竪穴住居」とは、その役割と構造が明確に区別されています。
問5	答え 1 穴に紐を通して指にかけ、熟した稲の穂先のみを摘み取る「穂首刈り」を行っていた。	当時の稲は現在の品種とは異なり、一斉に実るのではなく時期にばらつきがあったと考えられています。そのため、石包丁を用いて熟した穂だけを丁寧に選んで摘み取る「穂首刈り」という収穫方法がとられていました。中央の2つの穴は、作業中に道具が手から落ちないよう、植物の繊維などで作った紐を通して指に固定するための工夫です。
問6	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認められ、その権威を背景に周囲の小国に対して優位に立つため	当時の日本（倭）は100余りの小国に分かれて対立していました。奴国の王は、強大な力を持つ中国の王朝に使節を送り、皇帝に貢ぎ物を届けることで「王」としての承認（冊封）を受けました。授けられた金印は、中国皇帝の威光を背景に自らの支配の正当性を周囲に示すための重要な道具として機能しました。なお、仏教の伝来は6世紀、武力による統一の動きが加速するのは3世紀以降のことです。
問7	答え 3 青銅器	弥生時代には、大陸から青銅器と鉄器がほぼ同時に伝来しました。青銅器は、その独特の光沢や希少性から、実用的な道具というよりも、村の祭礼や儀式で用いられる祭具としての性格を強く持っていました。代表的なものに銅鐸、銅剣、銅鏡などがあります。
問8	答え 2 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問9	答え 3 外敵の侵入や攻撃を防ぐため、集落の周囲に深い溝（濠）を掘り、さらに柵を巡らせている。	弥生時代に稲作が普及すると、土地や水をめぐる争いが起こるようになりました。集落を敵から守るために、周囲に「濠（ほり）」と呼ばれる深い溝を掘ったり、木製の「柵」を立てたりする防御的な構造が取られました。このような集落を「環濠集落」と呼び、佐賀県の吉野ヶ里遺跡はその大規模な例として知られています。
問10	答え 2 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号や金印を授かることで、国内の小国に対する自らの権威を高めようとした。	当時の倭は多くの小国に分かれて争っていましたが、卑弥呼が強力な魏の皇帝から「倭の王」として認められ、称号や贈り物を授かることは、周辺の国々に対して自らの政治的正当性を示す外交的な手段でした。この記録が残る『魏志倭人伝』によって、当時の日本に存在した邪馬台国の統治体制や社会の様子が現代に伝えられています。
問11	答え 4 稲作が普及したことで、収穫した食料の貯蔵や煮炊きといった生活道具としての使いやすさが重視されるようになったから。	弥生時代には本格的な稲作が始まり、収穫した穀物を保存するための「壺」や、煮炊きのための「甕（かめ）」、盛り付けのための「高杯（たかづき）」など、用途に応じた器が作られました。そのため、縄文土器のような装飾性よりも、薄くて軽く、用途に適した機能的な形状へと進化しました。
問12	答え 1 環濠集落	稲作の開始によって収穫物の貯蔵が可能になり、富をめぐる集団間の対立が発生しました。佐賀県の吉野ヶ里遺跡に代表されるように、当時の人々は居住区の周囲に堀（環濠）を掘ったり、木の杭による柵を設けたりすることで、外部からの侵入を防ぐ工夫をしていました。これが環濠集落です。
問13	答え 2 木製農具の刃先に装着することで土地を耕す効率が向上し、農業生産力が高まった。	弥生時代には、大陸から鉄器と青銅器がほぼ同時に伝来しました。鉄は硬くて鋭利な性質を持つため、木製農具の先に取り付けて土を掘り返しやすくしたり、木工具や武器として利用されました。これにより、石器を使っていた時代に比べて稲作などの作業効率が劇的に改善されました。なお、青銅器は主に祭祀（お祭り）や儀式のための道具として使い分けられました。